

第 52 回神戸まつり 海にひらこうわれらの未来!

5 月 18 日、神戸市三宮のフラワーロードで第 52 回神戸まつりが開催された。初夏の汗ばむ陽気の中、沿道はおまつりパレードを目当てに来場した約 78 万 9 千人の観客で埋め尽くされ、街中が賑わいを見せた。

今年のオープニングは、阪神・淡路大震災から三十年を迎え、1995 年から大切に歌い継がれてきた「しあわせを運べるように」の大合唱でスタートした。

神戸まつりのメインイベントの「おまつりパレード」では神戸市民協会を先頭に、サンバ・民踊・マーチングバンドなどの個性あふれる 67 団体（約 4600 人）が、フラワーロード・三宮中央通りを思い思いの衣装でパフォーマンスを披露し、沿道の観客を盛り上げた。

関西地方支部のメンバーは、恒例の船員職業アピールのパレードで「うみ・みなとの仲間たち」として、海事関係団体の約 100 人の仲間たちと共に行進を行った。今年は 8 番目の隊列で「海にひらこうわれらの未来」の横断幕を先頭に、船長服を身に着けたケイラインローローバルクシップマネジメント株式会社の山崎諒職場委員と上原颯馬在籍専従執行部員が、船に見立てて装飾された車両の上から笑顔で手を振り、時にはキリッとした表情で敬礼するなど沿道からのリクエストに応えた。

行進中はイベント本部の案内放送で「日本の貨物の輸出入の 99%以上が船で運ばれていること、周囲を海に囲まれた日本の生活・文化や産業の多くが海や港と深く関わって発展してきた経緯、特に神戸は、海と港が普段の生活のすぐそばにあり、他の都市には見られない独特の文化と魅力がある」とアナウンスが行われ、港町・神戸をアピールしながら、海運の重要性を神戸市民と観光客に伝えた。

「海員だより」